

製品名: Pim-1 (リン酸化 Tyr309) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05248**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	PIM1
別名	PIM1; Serine/threonine-protein kinase pim-1
遺伝子 ID	5292.0
SwissProt ID	P11309
免疫原	抗血清は、ヒト Pim-1 の Tyr309 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

背景

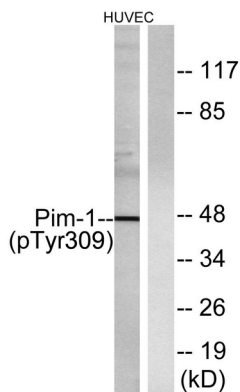
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーおよび PIM サブファミリーに属します。こ

の遺伝子は主に B リンパ球系および骨髄系細胞株で発現し、造血器悪性腫瘍および前立腺癌で過剰発現します。血液細胞におけるシグナル伝達に関与し、細胞増殖と生存の両方に寄与することで、腫瘍形成において選択的優位性をもたらします。ヒトおよびオーソログマウス遺伝子はともに、上流の非 AUG コドン (CUG) と下流の AUG コドン (PMID: 16186805、1825810) という、インフレーム翻訳開始コドンの選択的使用により、2つのアイソフォーム (細胞内局在が優先) をコードすることが報告されている。 [RefSeq 提供、2011 年 8 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マンガン。機能: 血液細胞におけるシグナル伝達において役割を果たす。細胞の増殖と生存の両方に寄与し、腫瘍形成において選択的優位性をもたらす。 HP1 γ /CBX3 をリン酸化することにより、クロマチンの構造またはサイレンシングに影響を与える可能性がある。誘導: サイトカインに対する JAK/STAT 経路によって白血球で強く誘導される。PTM: セリン/スレオニン残基とチロシン残基の両方が自己リン酸化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PIM サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: RP9 に結合する。アイソフォーム 2 は単量体として単離されるが、アイソフォーム 1 は他のタンパク質と複合体を形成する。アイソフォーム 1 は BMX に結合するが、アイソフォーム 2 は結合しない。組織特異性: 主に造血系および生殖細胞系細胞で発現する。アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 はどちらも前立腺癌細胞株で発現する。 ,

研究分野

Jak_STAT;急性骨髄性白血病;

画像データ



PMA 125 ng/ml 30分処理した HUVEC 細胞ライセートの Pim-1 (リン酸化 Tyr309) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。